

1

就職について考える

STEP 1 自分自身のことを整理しておく

普段から、自分が将来どういう仕事に就きたいのかを念頭において、自分自身のことを分析しておきましょう。

就職活動の直前になって、あわてて自己分析をするのではなく、今の段階から、将来を見据えて自己分析を繰り返しておくことで、自分のやりたい仕事、自分の希望する生き方が見えてきますし、そのために必要な能力を磨くために、どんなことをしたらよいのかもわかるでしょう。

また、実際に就職活動をする段階になったとき、自分のどのような点がセールスポイントになるかわかっていると、自信をもって面接に臨むことができます。

今から自己分析を始めることで、悔いのない就職を実現しましょう！

自己分析チェックポイント

1 これまでの生活を振り返ってみる

- 大学に進学した目的、学部や専攻分野を選択した理由は何か。
- 何に興味を持ち、どういうことに打ち込んでいるか。
- サークル活動やアルバイトなどの経験から何を学び、どう成長したか。
- どのようなことに感動したか。挫折したのはどのような時か。その時どう感じ、それをどう克服したか。 など

2 自分の能力・適性について考える

- 自分の性格の特長はどこにあるか。
- 自分のセールスポイントは何か。
- 集団の中で、どんな役回りが多いか。
- 家族や友人からどう評価されることが多いか。
- 何か資格を持っているか、特技は何か。 など
- どのようなことにやりがいを感じるか。
- どのような仕事に興味があるか、その理由は何か。
- その仕事にはどのような能力が必要と思うか。 など

3 キャリアプランを考える

- 人生設計の中で仕事をどう位置づけたいか。
- 5年後、10年後どのように仕事に携わっていたいか。
- 結婚、出産、育児などの家庭生活と仕事を、どう捉えていきたいか。 など

例えば ▶ 「十分に力が発揮できる会社で定年まで働きたい」
「結婚し、子どもも欲しいので、仕事と生活の両立のための制度が整っている会社を選びたい」
「若いうちは仕事に打ち込み、職場で実績を積んでから出産、育児をしたい」
「体力のある若いうちに出産、育児期を乗り切って働きたい」
「30代で起業したいので、それまで会社で働いて勉強したい」
「生活の変化に応じて、働き方を見直していきたい」

実際に自己分析をしてみよう!

自己分析を行う時は、前ページの「自己分析チェックポイント」に対する回答を書き出してみたり、既存のワークシートを使います。

より効果的な自己分析を行うために、以下の点に注意してみてください。

1 本音で書く

自己分析を行う際に重要なのは、「自分がどういう人間なのか」、「自分にとって仕事、働くことはどういう意味を持つのか」、「将来、どういう人間になりたいか、どういう生活をしていきたいのか」などについて客観的に見つめることです。

自分を飾らず本音で書くことは、自分に合った仕事は何かを考える第一歩です。

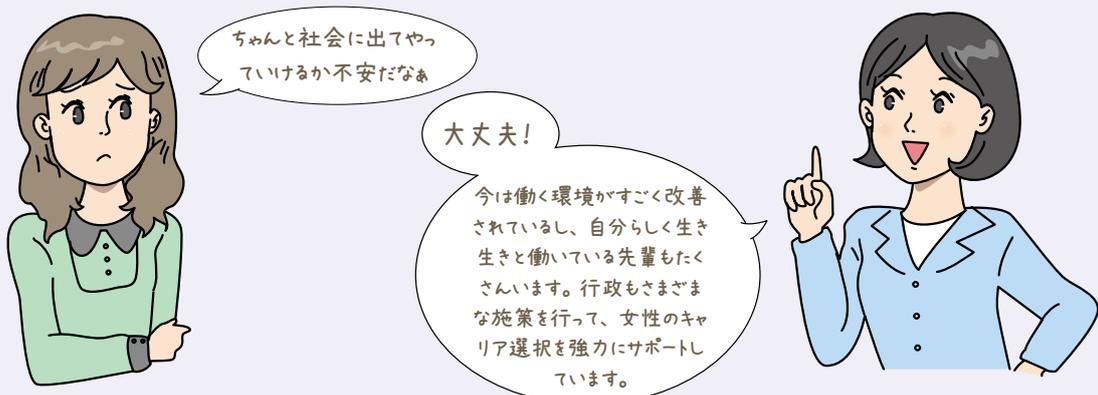
2 友人や知人の意見も聞く

自分のことを知るためには、自分で自分のことを客観的に見るだけでなく、他者の目から見た自分を知ることも重要です。

自己分析を自分で行ったときと同じ問いについて、他の人の意見を聞いてみたり、自分がまとめた自己分析ワークシートを他の人に見てもらおうと、より客観的な結果を得ることができます。

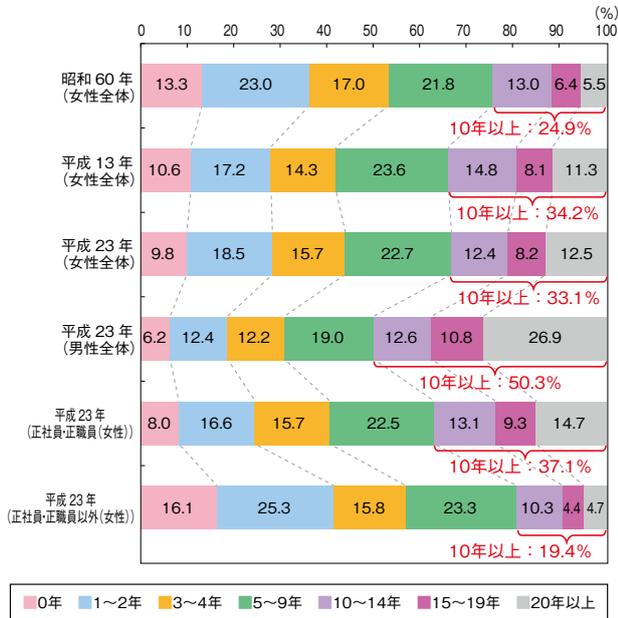
3 何回も繰り返し書いてみる

毎日さまざまな人や出来事に接することによって、価値観や仕事に対する考え方も変化していきます。自己分析は1回だけ行ってそのままにするのではなく、繰り返し行うことで、自分自身の理解が進みます。また、分析をした時期ごとにリアルな自分の姿を知ることが可能になります。



STEP 2 働く女性の現状を知る

① 正社員の3割以上が10年以上勤続 (正社員以外は2割以下)

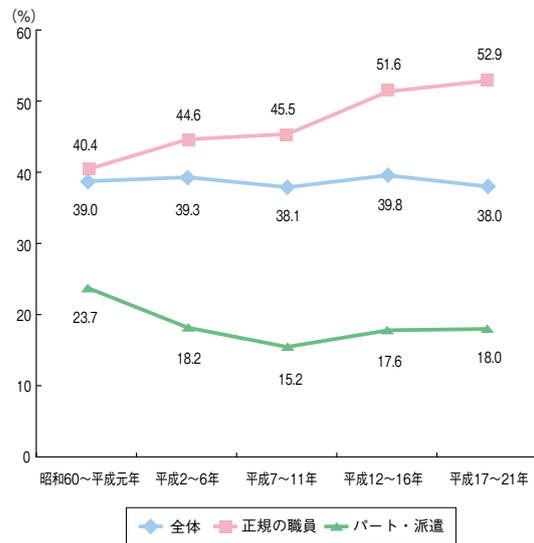


出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

注1) 企業規模10人以上

注2) 勤続年数計の一般労働者数に占める、各勤続年数階級別の一般労働者数を算出

② 正社員の5割以上が第1子出産後も 就業継続(パート・派遣は2割以下)

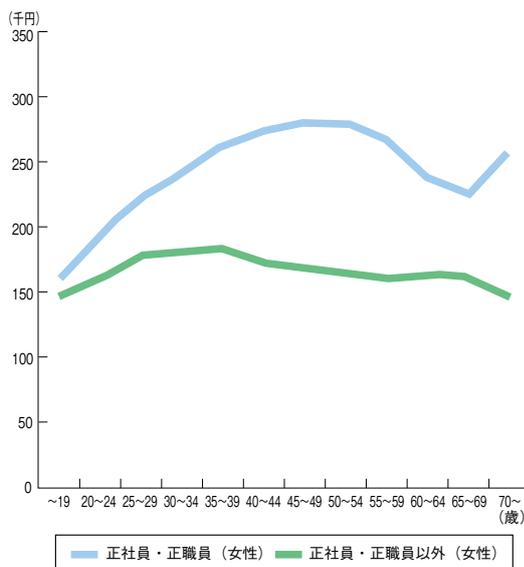


出典：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査(夫婦調査)」(平成22年)

注1) 妊娠時に就業していた妻に占める第1子出産後に就業を継続していた妻の割合

注2) 初婚どうし夫婦について、第12回~第14回調査の当該児が1歳以上15歳未満の夫婦を合わせて集計

③ 正社員と正社員以外では賃金に差



出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

注) 賃金は所定内給与

④ いったん退職してしまうと、 生涯賃金に大きな差が出る

大学卒業後、22歳時に就職、28歳で第一子、31歳で第二子を出産と仮定。

	生涯所得 (退職金含む)	逸失額
出産退職後、第二子が6歳になった37歳時に他企業に正社員として再就職した場合	1億7,709万円	9,936万円
出産退職後、第二子が6歳になった37歳時にパート・アルバイトとして再就職した場合	4,913万円	2億2,732万円

出典：内閣府「平成17年国民生活白書」

STEP ③ 業種・職種・企業研究をする

幅広い可能性を考えましょう！

「女性だから事務職」、「女性は技術職では採用されない」などの固定観念から離れ、自己分析で整理した、自分の適性・やりたいこと・キャリアプランなどを踏まえて、自分らしい選択をしましょう。

インターンシップにチャレンジしてみましょ！

インターンシップ(在学中の就業体験)は、実際の仕事や職場の状況を知る良い機会です。どんなインターンシップがあるか、ホームページで紹介している企業もあります。

いろいろな情報収集先があります！

新卒応援ハローワーク・大卒等就職情報WEB提供サービス

「新卒応援ハローワーク」は、大学院・大学・短大・高専・専修学校などの学生や、卒業後未就職の方の就職を支援する専門のハローワークです。各都道府県に設置しており、求人情報の提供、各種セミナー、担当者制の個別支援など、多彩なメニューを用意して、就職活動をバックアップしています。

また、「大卒等就職情報WEB提供サービス」(ホームページ)では、ハローワークの学生向け求人(一部)をインターネット上で検索・閲覧したり、新卒応援ハローワークで行う各種イベント・セミナーの情報を入手できます。

■ 新卒応援ハローワーク

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/05.html>

■ 大卒等就職情報WEB提供サービス

<http://job.gakusei.go.jp/>

ポジティブ・アクション、仕事と家庭の両立支援関連

女性の活躍推進や、仕事と家庭の両立に取り組んでいる企業の情報を紹介している厚生労働省が運営するサイトがあります。サイトに掲載されている情報を活用し、企業研究をするのも一つの方法です。

■ 女性の活躍推進や、仕事と家庭の両立に取り組んでいる企業の情報 ポジティブ・アクション応援サイト、女性の活躍推進宣言コーナー、両立支援のひろば



<http://www.positiveaction.jp/pa/index.php>



<http://www.positiveaction.jp/declaration/>



<http://www.ryouritsu.jp/index.html>

このマークを知っていますか？

ポジティブ・アクション

個々の企業において、固定的な男女の役割分担意識や過去の経緯から
 ・営業職に女性はほとんどいない ・課長以上の管理職は男性が大半を占めている
 といった差が男女労働者の間に生じているとき、それを解消しようと、企業が自主的かつ積極的に行う取り組みを「ポジティブ・アクション」といいます。

例えば、次のような取り組みを行っている企業があります。

- 女性の少ない職種における女性の採用拡大…女性の採用人数の目標を設定
- 女性管理職の増加…モデルとなる女性の育成

ポジティブ・アクションは、単に女性だからという理由だけで女性を「優遇」するためのものではありません。これまでの慣行や固定的な男女の役割分担意識などが原因で、女性が男性よりも能力を発揮しにくくなっている状況を「改善」するための取り組みです。

ポジティブ・アクション普及促進のためのシンボルマーク「きらら」(右図)をホームページや会社案内に掲げている企業は、ポジティブ・アクションに取り組んだり、その趣旨に賛同する企業です。



▲ きらら

■ ポジティブ・アクションについて

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyoukintou/seisaku04/index.html

仕事と家庭の両立支援

次世代育成支援対策推進法に基づき、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けた企業は、次世代認定マーク「くるみん」(右図)を使用できます。

「くるみん」取得企業は、一般事業主行動計画(※)を策定・実施し、その結果、行動計画に定めた目標を達成したり、育児休業取得者がいるなどの一定の基準を満たした企業です。

※従業員が仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や子育てをしていない従業員をも含めた多様な労働条件の整備などに取り組むに当たって、目標やその達成のための対策などを定めた計画



▲ くるみん

■ 「くるみん」取得企業一覧

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/kijuntekigou/>

均等・両立推進企業表彰

厚生労働省では、「女性の能力発揮を促進するための積極的な取り組み」や「仕事と育児・介護との両立支援のための取り組み」を行って成果を上げ、他の模範となるような企業を表彰しています。表彰制度の概要やこれまでに表彰された企業は、厚生労働省のホームページで紹介しています。

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/kintou/ryouritsu.html>